

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

文学部・日本語・日本文学科
顧 偉良

作成日 2024年1月30日

1. 教育の責務

<p>1991年4月より日本語・日本文学科の教員として着任以来、長い間、日本近現代文学関係科目、及び中国語に関する科目を中心に学生を指導してきた。</p> <p>日本文学分野においては、近現代文学の作品を中心に講読、及び演習形式で授業を行います。現在、以下の科目を担当している。</p> <p>中国語に関しては、発音、会話、文法を中心にして、初級者レベルの中国語会話力を身に付けるのが目的です。</p>				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
近現代文学演習ⅠA	3年	演習	前期	明治、大正、及び昭和期、日本戦後文学を視野に入れ、森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、梶井基次郎、太宰治、大江健三郎、村上春樹等の小説について、作品や表現方法などを分析する
近現代文学演習ⅠB	3年	演習	後期	明治、大正、及び昭和期、日本戦後文学を視野に入れ、森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、梶井基次郎、太宰治、大江健三郎、村上春樹等の小説について、作品や表現方法などを分析する
近現代文学演習ⅡA	4年	演習	前期	明治、大正、及び昭和期、日本戦後文学を視野に入れ、森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、梶井基次郎、太宰治、大江健三郎、村上春樹等の小説について、作品や表現方法などを分析する
近現代文学演習ⅡB	4年	演習	後期	明治、大正、及び昭和期、日本戦後文学を視野に入れ、森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、梶井基次郎、太宰治、大江健三郎、村上春樹等の小説について、作品や表現方法などを分析する
地域文学研究	3年	講義	後期	東北出身の作家や詩人を中心に、宮沢賢治、草野心平、ないし太宰治等の小説、詩をめぐって、表現方法や作家像について分析する

日本文学特論 I V (近現代文学)	院1年	講義	前期	近現代文学の作家、小説について包括的に「近代」の枠組みの中で視野を広げ、日本と中国の作家の影響関係について考える講義
中国語A	1年	講義	前期	現代中国語の発音(母音、複母音、子音、鼻母音)の構造、初級中国語文法および初級中国語会話
中国語B	1年	講義	前期	現代中国語の発音(母音、複母音、子音、鼻母音)の構造、初級中国語文法および初級中国語会話
中国語C	1年	講義	後期	現代中国語の発音(母音、複母音、子音、鼻母音)の構造、初級中国語文法および初級中国語会話
中国語D	1年	講義	後期	現代中国語の発音(母音、複母音、子音、鼻母音)の構造、初級中国語文法および初級中国語会話

2. 教育の理念

近現代文学演習 I、II (3年、4年、演習、前期、後期) 科目において、明治、大正、及び昭和期、そして日本戦後文学を視野に入れて、森鷗外、夏目漱石、谷崎潤一郎、川端康成、梶井基次郎、太宰治、大江健三郎、村上春樹等の小説に関して、毎年必ず二人以上の作家の作品を取り上げ、作品分析、表現方法などに着目し、作家理解を努めるのが目的である。

地域文学研究 (3年、講義、後期) の科目については、主に東北出身の作家や詩人を中心に、宮沢賢治、草野心平、ないし太宰治等の作品をめぐって、表現方法や特色に着目し、取り上げる作品について分析を通して作品理解を高めることが何より重要と考えている。科目担当者自身の日頃の研究成果を踏まえ、作家に対する理解を学生に披露することに努める。

中国語科目については、発音 (母音、複母音、子音、鼻母音) 、文法、及び中国語の構文法に関する知識を身につけさせ、中国語の理解、及び会話力を高めることを目指す。

中国語発音から基礎文法、基礎会話まで中国語の基礎を身につける。中国語の発音は、単母音、複母音、子音、鼻母音の四つに分かれており、その数は全部で四百に近い。音節の構造も日本語の五十音図より複雑であり、音節の基本的数は約400個に近い。一つ一つの発音を教えながら、身につけてもらうまで練習を繰り返す。

大学院教育科目に関して、日本近現代文学のみならず、中国作家と日本との関係を視野に入れて、指導を行っている。魯迅、周作人の日本文学・文化受容は、夏目漱石、柳宗悦などに関係している。

3. 教育の方法

近現代文学演習科目（Ⅰ、Ⅱ）について、方法としては、グループワークの方法で、毎回ディスカッション（3～5 人一組）を行なった上、各グループワークの代表でディスカッションを発表する。

一つの作品に対して、毎回各グループの発表後、コメントや質問することが求められる。目立った問題点に関しては、教員が問題点を整理し、分析する。共通認識を目指したい。

最終的には、どういう場面においても、発表者として自信を持って、発表し、質問に答えることができることを目指す。

シラバスに記載されている到達目標や評価方法だけでなく、作品の理解や問題の発見等を通じて思考力を磨くために、フィードバックを与える必要がある。

教員の熱意を明確に学生に伝えるためには、演習発表に関する目標を定め、コースパッケージを作成する必要がある。使用する教材・文献・課題などを丁寧に説明する。グループワークの方法で宮沢賢治の童話作品についてディスカッション（全員参加、5～6 人一組）を行なった上、各グループワークの代表がディスカッションの内容を発表する。講義担当者は、各グループワークのディスカッションをまとめ、各章・節の問題点や表現特色について分析する。

現在、大学院生教育において、魯迅、周作人の日本文学・文化受容をめぐって、日本の作家、文人などとの影響関係について指導している。

4. 教育の成果

○中国語A、B、C、D（1年、講義、前期・後期）

学生からの評価結果を踏まえて、世界言語の中で最も発音の難しい中国語授業では、中国語の発音特徴や初級文法を身につけさせるために、丁寧に教え、例文や練習を中心に工夫する必要がある。

○近現代文学演習ⅠA、ⅠB（3年、演習、前期・後期）

「総合的にみて、この授業に満足している」が学部・全学平均値と同評価であり、それほど低い評価ではなかった。今年度からグループワークの形式で、毎回、全員参加による作品の読みを進める。他人の感想に触れることができる演習で、これまで毎回二人だけの発表より、楽しみながら学習することができた。

○近現代文学演習ⅡA、ⅡB（4年、演習、前期・後期）

「総合的にみて、この授業に満足している」が学部・全学平均値と同評価であり、それほど低い評価ではなかった。

四年生しか取れない近現代文学演習Ⅱに関して、谷崎潤一郎や太宰治などの作品を中心に講読し、発表する。毎回、演習発表に関する感想を書かせる。作品分析について、学生とともに考え、作品理解に努めるよう努力する必要がある。

○地域文学研究（3年、講義、後期）

全体的に「授業担当者に対する評価」、「授業内容に対する評価」に関して全学平均値と同評価である。この科目に関して、東北出身の詩人や小説家を中心に取り上げ、主に作品を講読する。現在、主に宮沢賢治について詩の方法や表現特色、および童話をめぐって分析する。

○大学院「日本文学特論ⅠV」（近現代文学）

すべての項目は、研究科・大学院平均値より高い。これに満足せずに、修士論文のテーマに適するような問題意識、研究方向を高める必要がある。

5. 教育の改善

日本近現代文学演習科目について、明治期、大正期、昭和期、及び戦後文学を含めて、不特定の作家を取り上げ、作品を中心に演習発表をする。毎回、演習発表に関する感想を書かせる。学生からの評価結果を踏まえて、扱う作家や作品の難易度を配慮する。

地域文学研究科目においては、詩人宮沢賢治を中心に、講義を進める。学生の感想や評価を踏まえて、童話や詩の表現方法を考える。

演習科目では、発表原稿を事前に提出してもらって、チェックするという事になっている。

現在、演習発表について毎回読後の感想文を書いてもらっている。毎回教室で配布している。発表終了後に書いた感想文を回収する。同時に前回分の感想文を返す。今年度後期から感想を書かせるだけでなく、授業のスキルを高めるために質問シートに具体的な項目を設け、書いてもらう。そして、回収した質問シートに必ずチェックして学生に返す。演習形式科目の授業のスキルを高めるために、演習要綱、及び取り上げる作品、及び演習発表の方法等について丁寧に学生に説明することが必要である。演習発表に取り上げる文学作品の難易度を選定し、難解な作品を避ける。作品に対する教員自身の理解を適宜に説明する。シラバスに記載されている到達目標や評価方法だけでなく、作品の理解や問題の発見等を通じて思考力を磨くために、フィードバックを与える必要がある。

中国語科目に関しては、中国語の特性を考え、一回の期末試験だけでなく、なるべく練習を増やして、一課ごとに小テストを行う。それにより習った文法などを身につけさせる。中国語の文法や文型等について例文などを挙げて学生に理解してもらう。

中国語の助詞や動詞、形容詞の使い方、文型等に関して、単なる口頭で説明するだけでなく、例文などをあげながら、授業を進める。

教科書の内容だけではなく、動詞や助詞、形容詞、及び文型の使い方について、なるべく多くの例文を用意する。

大学院教育に関して、現在の状況に満足せず、修士論文テーマに合わせて、作家や作品に対する理解、及び修士論文の問題意識を高める必要がある。

6. 教育の目標

短期 近現代文学演習科目については、取り上げる作家や作品について、発表の質を高めるために、必ず発表前にチェックし、必要に応じて問題点を指摘して、書き直すようにする。グループワークの方法で、作品をめぐってディスカッション（3～4人一組）を行なった上、各グループワークの代表でディスカッションを発表する。各グループの発表の問題点をまとめ、各章・節の問題点や表現上の特色について分析する。

中国語科目に関して、中国語に関する練習を増やして、文法や発音に関する実践方法を究める。

長期 近現代文学演習系の科目に関して、これまで一組の発表形式を変えて、受講者全員を四つか五つのグループに分けて、グループごとに一人ひとり自分の感想を読み上げる。この形式は、作品理解を深めることができる。

中国語科目に関して、三ヶ月以内に中国語の発音を身につけさせ、受講者全員が暗記できる方法で徹底的に指導する。中国語の初級文法、会話を身につけるのを目指す。

大学院教育に関して、日本と中国の作家の影響をめぐって、包括的に「近代」の枠組みの中で視野を広げ、先鋭なる問題意識を持つ必要がある。

【資料】

1. シラバス、学生アンケート
2. 中国語C
3. 中国語D
4. 近現代文学演習 I B
5. 近現代文学演習 II A
6. 近現代文学演習 II B
7. 地域文学研究
8. 大学院「日本文学特論 I V」（近現代文学）